

チーム入間

要素技術の 異なる5社が結束し “とんがった” ソリューションを提供

製作所 [入間市、大場治社長 (図1)]、精密プレス金型製作・プレス加工の(株)松下製作所 (埼玉県飯能市、松下昌司社長)、微細切削加工の(株)入曾精密 (入間市、斎藤清和社長)、ダイカスト・セミソリッド加工の(株)テラダイ (入間市、寺園智樹社長)、電子ビーム・レーザー加工の東成エレクトロビーム(株) [東京都瑞穂町、上野邦香社長 (図2)] の5社。いずれも中小企業でありながら、世界トップクラスの造形技術を誇る企業である。

とはいえ、当時の産業界はリーマン・ショック後のどん底状態にあり、技術自慢の5社であっても「個々の企業の自助努力だけでは激しい環境変化に追いつけず、せっかくの独自技術も宝のもち腐れに終わりがねない」という危機感があった。そして「とんがった技術をもつ企業が集まれば、1企業だけではできなかったことが可能になる」と考えた。それから12年、今や5社は固い絆で結ばれ、「中小企業の連携組織」と言えば必ずチーム入間の名前が挙がるほど知名度は増した。しかも、チーム発足時と比べるとメンバー各社の業績は格段に向上している。

しかし、初めからメンバー各社が今日のような一枚岩だったわけではない。そもそもチームの発足からして異例なものだった。チームの結成を正式に発表する前に新聞記事として掲載されてしまったのだ。「今となっては笑い話にすぎませんが、個々のメンバーには『何かやりたいよね』という話はしていたものの、それ以上の詰めた議論は誰もしていなかったのです」と狭山金型製作所の大場氏は打ち明ける。

ことの発端は、自他ともに認めるチーム入間のプースター (ロケット発射時の補助推進装置の意味) こと、入曾精密の斎藤氏の行動にあった。斎藤氏はかねてから、それぞれに要素技術が異なるキラリと光るメンバ

精密金型メーカーや成形メーカーなど、埼玉県入間市近郊の中小企業5社で構成する企業連携組織「チーム入間」。共同受注を目的とする企業連携が多い中、目先の利益は求めず、メンバー各社が得意とする“とんがった”技術をもち寄り、顧客企業に喜んでもらえるソリューションをワンストップで提供することを目標とする。チーム結成から12年。個性的で突破力のある社長たちによる代表者部会と実務担当者部会の二元代表制が定着。将来の大躍進を目指している。

新聞記事が先だった

チーム入間が結成されたのは2009年4月。メンバーは、精密プラスチック金型製作・成形の(株)狭山金型



図1 狭山金型製作所の大場治氏